

【第3回学区審議会資料】

小規模校と大規模校のメリット・デメリットについて

＜小規模校メリット＞

(1) 個別対応の充実

- ・教師が、子供たち一人一人に目を配り個に応じた支援がしやすい。
- ・担任だけでなく、全職員で子供たち一人一人に関わりをもちやすい。

(2) 温かい人間関係の醸成

- ・アットホームな雰囲気が醸成され、安心して学ぶ環境を整えやすい。

(3) 体験活動等の充実

- ・子供たちの学ぶ場や活躍する場（体験・発表等）が多く設定できるため、充実した活動が期待できる。

(4) 保護者・地域との連携

- ・教育活動（行事等）を通して、保護者や地域との関わりが持ちやすく、個別のつながりも深まる。

＜小規模校デメリット＞

(1) 教師の負担

- ・少人数で多くの業務を分担する必要がある。

(2) 学びの環境

- ・子どもの人数が少ないことで、学びの幅が狭まる可能性がある。

※デメリット解消の工夫例

- ・教師の負担軽減のため、学校サポーター等を配置し、人的支援を行っている。
- ・異学年での活動や外部人材を活用した授業、他校との交流等を計画的に実施している。

＜大規模校メリット＞

(1) 多様な人間関係の構築

- ・多くの友達と出会うことで、様々な価値観や考えを得やすい。
- ・様々な考えをもつ友達との生活により、相手を理解し協働性や社会性が身に付きやすい。

(2) 保護者・地域との連携

- ・様々な専門性をもつ保護者が多く、連携協力することで子供たちに充実した学びを提供しやすい。

(3) 教師の多様性

- ・各分野の専門性を持つ教師が、配置されやすい。

＜大規模校デメリット＞

(1) 教師間の連携

- ・教職員が多いことで、情報共有が取りにくいことがある。

(2) 移動や登下校の混雑

- ・教室間移動や登下校時の混雑が発生しやすく、時間もかかりやすい。

(3) 施設の過密状態

- ・校庭や体育館の活用制限が発生する場合がある。

※デメリット解消の工夫例

- ・ICT ツールを有効活用し、教職員間の情報共有を図っている。
- ・行事等を分散して行うことで、より安全に充実した活動が行えるように配慮している。
- ・校庭や体育館の割振りを行い、安全に活動できるように配慮している。

★つくば市では学校規模に関わらず、それぞれの規模に応じたメリットを最大限生かし、デメリットを最小限にしていくため、学校内での取り組みだけでなく、校長を中心に学校間での協議・連携を密に行い、子供たちにとってよりよい学びにつながるよう努めています。